

千歯会便り



毎年毎月のように「異常気象」と囁かれるようですが、今年は一早く、熱暑の日々を迎えました。

熱射病対策、黴・食中毒対策など、身の回りの衛生に気をつけましょう。

おゆみ野総合歯科クリニック 開業一周年記念

過日、前千葉市の教育長さんからお祝いとして、県書道界で活躍する奥様の飯森金鷲先生の作品を頂きました。

「訓——誠知情献」

若い人達には堅苦しいと歓迎されないかも知れませんが、古くから時代を超えて「人の道」として伝えられてきた言葉です。

【誠】は、「誠実」というように嘘偽りなく正直という人への態度です。

【知】は、「知性」というように、行動を向上させるためにいろいろと勉強をして教養を身につけることです。

【情】は、人間誰しもが元々持っている喜怒哀楽と言った「感情」です。最近では科学的・合理的・金銭的といった方程式が横行して、他人の「感情」を傷つけてしまうことが多いようです。歯科医療においては、明るく優しく、患者さんに接して励ます姿勢のことでしょう。

【献】は「献身」というように、自分のためではなく他者に尽くすことです。

頂いた作品はおゆみ野総合歯科クリニックの応接間に掲げてあります。時に、のぞいてみてください。

この頃は「一度きりの人生を好きなこととして面白楽しく過ごそう」という人々をよく聞きます。しかし、「人の間」と書いて「人間」と読むように、人は人の中で生きていくのです。ですから、本当に「面白楽しく」過ごしたいのなら、一人で力むだけではなく、周囲の人

達との関係を好ましい形にしなければならぬはず。各自それぞれの生き方の中でも、共有できる「人の道」を掲げて交わることで、楽しい人生を過ごせるでしょう。

おゆみ野総合歯科クリニックの一周年を期に、千歯会にむけての暖かいお祝いを様々な方々から頂きました。日本一の国保病院へと尽力された、旭中央病院の伊良部先生。健康福祉部で苦勞をされて新たに障害者福祉事業団の理事長になられた高橋さん。

「誰が為に鐘は鳴る」

時には大きな心で人の道を見つめて、ご声援に添えていきたいものです。

開院三十周年記念に向けて

来年、二月十七日に千歯会の前身「大網歯科医院」が発足して三十周年を迎えます。

思えば長い年月でした。その間、ドクターや歯科衛生士、歯科助手や受付といったスタッフには、家業を継ぐ者、独立する者、結婚と子育てでやむを得なく休業する者などと、それぞれの理由での交代もありましたが、皆、地域の方々に信頼される医療機関となるために精一杯頑張ってくれました。新たに入ってきたスタッフ達も、先輩の築いた伝統と信頼を踏まえて、日進月歩の技術と知識をもって頑張ってくれています。おかげで

千歯会は三事業所で、百名を超えるスタッフが働く医療機関になることが出来ました。

三十周年の節目を前にして、今後も共に働いてきたスタッフのため、お支え頂いた地域の皆様のため、より充実した「千歯会」にならなければと、その重責を痛感しております。

「温故知新」——その三十周年記念事業については、県立歯科衛生士学校（現・千葉県立保健医療大学）一期生、開院以来勤務されてきた黒川さんにその労をお願いたしました。皆様にも積極的な協力をお願いいたします。

医療法人社団 千歯会

千歯会 二度目のくるみん認定交付



平成二十七年五月十四日（木）千葉労務局にて労働局長による「くるみん」認定書交付式が開催され、秋庭理事長と黒川理事で参加してきました。

次世代育成支援対策推進法第十三条に基づく認定を受けた企業へ厚生労働大臣の認定（くるみん認定）であり、千歯会は二度目の交付となります。

詳しくは労務局のホームページをご覧ください。

4月 から会計時に
領収書と共に医療明細書
が発行されることになり
ました。

片貝
デンタル
クリニック

従来の領収書だけではわかりづらかった、
「受けた歯科医療にはどれだけのコストがか
かっているのか」
「どんな材料を使い、治療費はいくらなのか」
などが明瞭に記載されています。

今後も地域の皆様に寄り添った歯科医院であ
るよう、心がけていきたいと思えます。



片貝デンタルクリニック

山武郡九十九里町片貝
2380

TEL 0475-70-7171
FAX 0475-76-4888

5/31は
「世界禁煙 DAY」です。

5月31日



世界禁煙デー

・1日10本以上
の喫煙で歯周病
にかかる危険は
5.4倍、10年以上
の喫煙で4.3倍に上昇し、重症化
しやすくなります。

・タバコを吸っていると歯肉の腫れや出血の見
た目がわかりづらくなり、歯周病の自覚を持つ
のが遅れます。
・治療を行った後も、喫煙者の歯肉は再び悪く
なっていく傾向があります。



これを機に禁煙を
考えて見るのは
いかがでしょうか？



大網歯科医院

大網白里市みやこ野
2-2-1

TEL 0475-72-6480
FAX 0475-72-8059

千歯会 事業所便り

口腔ケアに使われる器具の
ご紹介、第3回目は大型の、
機械仕掛けで動く器具です。

千歯会
訪問部



⑦吸引器
溜まった唾液や汚れを吸い取る機械。
治療の時や、口腔機能が低下して

いる患者さんに使います。

⑧超音波スケーラー
超音波の細かい振動によって歯石や歯の着色を
除去する機械です。



訪問診療部

大網診療部
TEL 0475-73-6480
FAX 0475-53-6982

片貝診療部
TEL 0475-76-8201
FAX 0475-71-3472

おゆみ野診療部
TEL 043-300-3600
FAX 043-300-3700

4/29 昭和の日。
昭和の森にバーベキューに
行ってきました！
おっきなはまぐり！スモーク
サーモン！お腹いっぱい食べて
サッカーで汗をかいて、とても
楽しい休日でした！

おゆみ野
総合歯科
クリニック



おゆみ野
総合歯科クリニック

緑区おゆみ野 4-3-9

TEL 043-300-3939
FAX 043-300-3940

〈千歯会カルチャー〉

コップ一杯の水の由来

先日「想像を広げる訓練に」と、理事長からスタッフへ、レポートの提出が求められました。テーマは「たったコップ一杯の水に、どれだけの人が関わっているのか」といったことで、九十三名の手による、さぞかし苦労されたであろう原稿が集められました。御下命により、不束ながらその概略を纏めてみました。

まず始めに感じたことは、皆さんがそれぞれの立場で一生懸命に考えて調べられた様子が垣間見られて感心しました。「こんな事を考えたこともなかった」から始まって、パソコンで調べたり本を漁ったり、家人や知人や関係者に聞いただったり。中にはご主人を座長にし、二人の子ども達を交えて四人での家族会議をしてレポートを作成したという方もおられました。

内容は、雨水からダムに始まり、河川から浄水場、給水場を経て水道蛇口から流れ出る、といった、工程の大筋を書き示したものが多く見受けられましたが、それもひとりひとりが細かく検証を加えて答えられていました。

水源となる水系（首都圏は利根川）や取水権といった政治や行政の問題、更にダムや導水路や浄水場などの建築関係の職種や数え切れないほどの多くの人々の力を列挙した人、あるいは水道に関わる機械、機材を作る人々までに考えを広げた方もいました。蛇口までの工程を四十七にも分けて、順序立てて説明された方もおりましたし、大綱の場合として利根川から両総用水東金水道事業団以下、各市町村の浄水場の面積から「家庭の水道料金は引き込み管の口径の太さによつて基本料金が違う」といったことまで調べた人もおりました。

さらに安全な水に関して感心させられました。水質基準から始まって、浄水場の沈殿地に使用する凝集剤、ポリ塩化ナトリウムや次亜塩素酸ナトリウムという消毒薬、オゾン処理、活性炭処理などによつて私たちは毎日、当たり前のようにして安全な水を飲むことが出来るのだそうです。現在、世界には二百カ国近い国があります。水道水を安心して飲める国は、なんと、十五・六カ国しかないそ

うです。それどころか発達途上国では水道自体が確立されていない地域も多くあります。海外援助隊が「上総彫り」といった工法で地下水をくみ上げて提供をしたところ、無色透明な水を初めて見た住民は気味悪がってなかなか飲もうとしなかった——ということ調べて方もおりました。

——まだまだ沢山あるのですが、紙面の都合で以下纏めて列挙いたします。

(一) 地球は水の惑星だった。だが人間の利用できるのはその0.01%以下。水がなければすべての生命は死ぬ。人間は一日2ℓの水を飲み、5ℓ以上の生活用水を使う。——絶対的自然である水への感謝。

(二) ローマの歴史から始まって、水道は都市から地方へと人間が存在するための公的財産として、数え切れないほどの多くの人達によつて作り上げられて維持されてきた——先進国では水道は生活のライフラインとなった。

(三) そしてそこに働いてきた人々の関係は、一次的には行政や工事会社や工事人といわず、そのために必要なあらゆる職種の人達の協働ですが、二次的にはそれらの人々もまた異なった協働の結果の恩恵を受けているのだといった、人間社会の循環を指摘する人もいました。

そして皆さんの大多数の結論は、日頃当たり前のこととして考えても見なかつたことが、たった一杯のコップの水がどのようにして目の前にあるのかと

問われ、その答探しの中で、私達はいつしかそれを支える人達の苦勞を忘れ、いろいろな贅沢に慣れてしまつていた。改めて考えると自分たちは何時も何処かで誰かに生かされているのだといった理解と感謝を——実感として勉強させて頂いたということでした。

特にドクターを中心とした過半数の人達が、そんな思いを日頃の治療業務に転じ、受付を始めとする全スタッフと部外業者による協働作業もあれば、自分もまたその一員であるといった自覚を新たに、楽しいやり甲斐のある職場づくりに努めたいといったことでした。

——いづれにしろ、人間的にも家庭的にも職場的にも大変有意義なレポート集だと拝見いたしました。

最後に、大学教授でもある伊藤先生にまで俯瞰的系統的な分析で皆に率先してご参加だけだったことに感謝申し上げます。

皆さん！ ご苦勞様でした。いつか理事長さんからもお話があるそうです。

【余滴】

・籠に乗る人、担ぐ人、そのまた草鞋を作る人。古い話だが、天下人、苦勞人、徳川家康は知っていた。

・不便だから便利になろうとする。いつか現代も不便な時代だったという時代が来るのかも知れない。

ざっと世間を眺めれば



〈戦後を知らない人達に〉

二、あの戦争の後

私の父は学校の校長として戦争を勧める国民教育に生涯を懸けてきました。当時の国は明治憲法の統帥権といった「一度国が大変な事態となつたら国民は挙国一致、国の方針に従わなければならない」と、戦争に協力させられていました。批判や抵抗をする者は非国民として容赦なく罰せられたのです。そのような空気の中で父は大政翼賛会（※）幹部として多くの会議で挨拶をしたり、青年学校から満蒙開拓義勇軍として多くの生徒を満州に送つたり、校長官舎で隣接する飛行機場に配属された青年将校達と夜を徹して皇国の道（※）を論じたりしていました。

ところが開戦四年後の、八月十五日——ついに刃折れ矢尽きた我が国のポツダム宣言（全面降伏）を受け入れ、天皇の玉音（※）放送によって終戦を迎えることになりました。

その日のことがまざまざと眼にかびます。私の家の縁側にラジオが持ち出され、庭には本土防衛に配属されていた一小隊、五六十名ほどの兵士が地に俯き天を仰ぎ戦友と抱き合つて泣いていた。その姿が今も鮮やかに思い浮かびます。——兵士達はそのままで本気に戦わされてきたのです。隣に呆然と佇んでいた父の姿も無残でした。

連日襲いかかつてきた艦載機の攻撃も止まり、静寂を取り戻した大空から、練習機らしい間の抜けたよう

な爆音と共に「一億玉碎」を檄するビラが撒かれましたが、もう誰もそれを拾って読むことはありませんでした。子ども心には、何かほっと解放されたような明るさを感じたものでした。

ところが夕暮れ時、近所の人達が血相を変えて海岸の方へ駆けていきました。私もつられて駆けつけると既に黒山のような人だかりが固唾を呑んで遠い海岸を凝視していました。

まさに驚愕でした。——漁り火といった点灯ではなく、九十九里浜はおろか、北は鹿島灘から南は駿河湾といった、見渡す限りの水平線が光の帯となって煌めいていたのです。後でわかつたことですが、間一髪、それは連合軍の最終決戦首都攻撃のために待機していた艦隊群であったのです。

不遜な言いぐさですが、もし原爆投下がなかったら、硫黄島や沖縄の如く、山の形も変わるほどの空爆や艦隊砲撃の後、幾千隻とも知れぬ上陸舟艦で運ばれた戦車や兵士達によって、我々の住む首都圏は徹底的に破壊蹂躪されていたことでしょう。

——思い出すだにぞっとする悲惨な歴史の中で幸運だったのです。と、同時に追いかけるように「男は奴隷として連れ去られ、女はセイ

の慰み者にされて戦争を煽つた者は皆、銃殺される」といった流言が人々を不安に陥れました。何しろこれま

で「毛唐、米鬼撃滅」と、罵り戦いつつに相違し、占領軍は大変友好的でした。——ジープに乗った陽気な米兵が子ども達にチョコレートや菓子

を投げ与えたり、アメリカの余剰農産物の小麦粉や脱脂粉乳を学校給食で提供してくれたり、また占領軍は、自軍の兵士の乱暴や、地域の暴動に備えて、MPと呼ばれる軍事警察を働かせて、我が国の治安を守つてくれました。

一方、戦争裁判ではA級戦犯39名中7名が断罪されましたが、他の戦犯者達は公職追放令という軽いものでした。その後に公職追放が解除されると数多くの人々が政界や経済界へ進出したのです。天皇も「人間宣言」により許されました。

しかし自らの責任を忘れられなかった軍人や戦争推進者の中には、自決したり、世間の表舞台から姿を消したりした人達もたくさん居ました。私の父も戦後に燃えさかつた労働組合運動の中で、日教組の支部長になるようにと同僚や後輩に強要されましたが頑なに拒み、やがて校長を辞めてしまいました。そして農地解放といった不可抗力な制度の下、

せめて先祖からの田畑を守りたいと、母の生家の助けを借りて、やったこともない二町歩（一町歩は約三千坪）ほどの田畑の耕作を始めました。

それからの世間は激しく変わり、占領政策下の経済復興の中、今まで虐げられてきた思想犯を始め、農民や工員といった階級の人々が労働組合を立ち上げ、それぞれの権利を主

張し出し、戦時中とは全く異なった自由な社会になったのです。——それが戦後七十年の始まりでした。

日本の社会を大きく変えたのは七年前に及ぶ占領軍による政策でした。先に述べた「農地解放」、現在に及ぶ「平和憲法」も、占領軍時代に制定されたものです。だから他国の手により作られたものであり、主権国家の憲法ではないと批判する人もいます。我が国が実際に主権国家として発足したのは、昭和二十七年四月二十八日、サンフランシスコでの平和講和条約の発効を経てからでした。

現代は慌ただしく楽しく便利な社会となり、戦中戦後を知らない人が多くなりましたが、しかし近隣各国との軋轢が絶えないように、未だあの戦争は本当には終わっていないのです。引き続き、次号でも考えて見ましよう。

理事長 父
(次号に続く)

※大政翼賛会——全国民を戦争に向かわせる組織。

※皇国の道——天皇を神と崇める思想。
※玉音——天皇の言葉がそう呼ばれる。

千歯会便り 171号
2015年6月29日発行



SENSHIKAI

発行元 千歯会
医療法人社団 千歯会
編集 ウノ